

2021年11月1日

安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合

10月31日に行われた衆議院議員総選挙は、自由民主党は議席を減らしたものの単独過半数を維持し、自民党と立憲民主党の減少分を日本維新の会が吸収するという結果に終わった。

市民連合は、立憲野党に「市民と野党の共闘」、「野党共闘体制の確立」を求めて取り組んできた。立憲野党は289の小選挙区の4分の3で候補者を一本化し、一騎打ちの構図を作った。各地で野党候補の勝利のために奮闘した市民の方々には深い敬意と感謝を表明したい。多くの選挙区で野党候補が僅差の敗北を喫したことは極めて残念である。接戦の選挙区が多かったことは、野党と市民の協力に一定の効果があったことを意味していると思われる。しかし、野党と市民連合の政策が、今の政治に様々な疑問を感じている無党派層の理解や共感を得られなかったことを、反省しなければならない。

この選挙の反省をもとに、日常的な政策実現の取り組みと合わせて、来年の参議院選挙を戦う体制を再構築しなければならない。市民連合としては、今後とも自民党に代わる選択肢を創出するよう、努力を続けていきたい。

総選挙後の改憲問題の新たな局面を迎えて

2021.11.12 九条の会

10月31日に衆議院議員選挙が行われ、自民党は議席を減らしたものの単独過半数を維持し自公政権の存続が決まりました。維新の会の大幅議席増により自公と維新を合わせた改憲勢力は334議席となり、衆議院の3分の2を超える議席を獲得した結果、改憲問題は、新たな局面を迎えました。

岸田文雄首相は、自民党総裁選の最中から「任期中の改憲実行」、「敵基地攻撃能力」保有の検討を繰り返し表明しました。それを受けて総選挙に向けての自民党公約も、「敵基地攻撃能力」保有、防衛力の大幅強化と並んで、「早期の憲法改正」の実現を明記していましたが、総選挙の結果を踏まえて、岸田政権は、安倍政権以来の改憲策動の強化に踏み切る構えです。

岸田政権がまず手をつけようとしているのは、安倍・菅政権が推進した9条破壊の加速

化です。対中国の軍事同盟強化を目指した「国家安全保障戦略」と「防衛計画の大綱」の改定を来年末までに強行し、中国を念頭においた「敵基地攻撃能力」の保有、日米共同演習の強化、そして辺野古基地建設強行などを推し進めようとしています。

同時に、岸田自民党は、憲法9条明文の改憲にも踏み込むべく、臨時国会における憲法審査会での改憲案討議入りを狙っています。維新の会松井一郎代表の「来年参院選と同日に改憲国民投票を」という発言や国民民主党との憲法審査会毎週開催合意は、こうした自民党の明文改憲への策動を応援するものです。

しかし、日米軍事同盟強化と改憲という途は、米中の軍事対決・挑発を激化させ、日本と東北アジアの平和の実現に寄与するどころか、それを遠ざけるものです。明文改憲、9条破壊の策動を阻止しなければなりません。

9条の会をはじめとした市民の草の根からの運動は、自民党などによる改憲の企図を阻み続けてきました。とりわけ、安倍政権の下、衆参両院で改憲勢力が3分の2を占めて以降も、市民と野党の共闘の頑張り、幾次にもわたる全国統一署名運動、それに鼓舞された立憲野党の奮闘により憲法審査会での改憲案審議を行わず、19年参院選では改憲勢力3分の2を打ち破って安倍改憲を挫折に追い込みました。来年の参院選に向けた新たな改憲の動きに待ったをかけるのも、この市民と野党の共闘の力以外にはありません。

この力に確信を持って、市民の皆さんが、改憲と9条破壊の阻止のため、決意を新たに立ち上がられることを訴えます。

第49回総選挙の結果をふまえての声明

2021年11月2日

平和・民主・革新の日本をめざす全国の会（全国革新懇）代表世話人会

10月31日投票でたたかわれた第49回総選挙は、政治の転換をめざして「市民と野党の共闘」でたたかった野党4党（立憲民主、共産、れいわ、社民）の議席獲得が110にとどまり、一方で与党は改選前より議席を減らしたものの293議席を占め、補完勢力が議席を伸ばして第3党となった。

選挙区の7割で「市民と野党の共闘」が前進して「安倍菅政治」からの転換を訴え、少なくない選挙区で大激戦をくり広げて与党を追いつめ、自民党の現職、元幹事長などに競り勝つなど、野党で一本化をはかった62の選挙区で激戦に勝ち抜く貴重な成果もつくり出した。

今の選挙制度のもとで政治を変えるには、共通政策を明確にし、政権獲得を目標に一騎

打ちの対決構図をつくり出し、有権者に選択肢を示す道しかない。その方向に踏み出し、たたかいぬいたことを確認するとともに、成果や明らかになった課題などでの論議を深め、引き続いたたたかいにつなげていきたい。

全国革新懇は、今回の総選挙を、「市民と野党の共闘」の力で政権交代をめざす歴史的なたたかひの第一歩と位置づけた。各地の革新懇なども協力し、市民連合との連携も深めながら、代表世話人を先頭に選挙戦に積極的にかかわり、最終盤まで奮闘してきた。また、各地の革新懇や賛同団体も、それぞれの条件のもとで、かつてない構えで取り組んだ。それぞれの奮闘が野党共闘を深化させ、貴重な経験をつくり出し、次につながる相互の信頼を深めあったことを確認し、その奮闘に心からの敬意を表明する。

総選挙の結果、9条改憲などを主張する勢力、「アベノミクス」の継続や社会保障の削減、規制緩和の強行など、破綻が明らかな新自由主義政策の継続、強化を主張する勢力が3分の2の議席を占めることとなった。

一方で選挙をつうじ、争点となった科学的知見にもとづく新型コロナ感染対策への転換と医療、公衆衛生の拡充や、格差と貧困を生み出し続ける新自由主義政策からの転換、ジェンダー平等など一人ひとりが大切にされる社会の実現、さらには安保法制・戦争法の廃止をはじめとした憲法の平和原則をいかす政治など、いのち、くらしを守り平和で公正な社会を求める要求への市民の関心と支持もよせられた。

新たな政治状況をのりこえて要求を前進させ、「市民と野党の共闘」の力で新しい政治を実現して未来を切りひらくためにも、それらの要求課題での共闘を日常的に強め、革新懇の組織と運動を地域、職場に根付かせ、共闘の時代の運動前進、革新の役割発揮をめざしたい。

来夏の参議院選挙で「市民と野党の共闘」をさらに前進させ、次の総選挙での勝利を獲得するために、引き続きの取り組みを積みあげる決意である。